

新小野田発電所における 「林地残材バイオマス石炭混焼発電実証試験」の開始について

当社は、平成19年より新小野田発電所(所在地:山口県山陽小野田市,出力:50万kW×2基,所長:村上 英之)において、木質バイオマスの混焼を行っていますが、平成21年度に一般社団法人新エネルギー導入促進協議会の公募事業「平成21年度林地残材バイオマス石炭混焼発電実証事業※1」による補助金の交付決定を受け、林地残材バイオマスを新たに受け入れるための設備の設置を進めてまいりました。

(平成19年8月30日  [PDF:397KB], 平成21年11月2日  [PDF:186KB]お知らせ済み)

このたび、設備の設置工事が完了し、本日から、林地残材バイオマス石炭混焼発電実証試験を開始することとしました。

今後、従来から混焼を行っている木質バイオマスに加え、山口県森林組合連合会※2より供給を受けた林地残材と石炭との混焼発電を行い、CO₂の削減量や発電設備の運用性等を確認するとともに、発電設備、排ガスおよび石炭灰への影響等について検証を行ってまいります。

当社は、本実証事業を進めることで、国内の未利用森林資源の利用を促進し、更なるCO₂排出量の削減や、地域の活性化に貢献してまいります。

【実証試験の概要】

区分	増設	既設
木質バイオマス使用量	約2.5万t/年	約1万t/年
供給元	山口県森林組合連合会	日本樹木リサイクル協会※3
CO ₂ 削減量(見込量)	約2.9万t-CO ₂ /年	
木質バイオマス発電電力量(見込量)	約3,500万kWh/年	
事業スケジュール	平成23年2月～平成24年度 :実証試験 平成25年度～ :本格運用	

※1CO₂排出量の削減や地域活性化等にも有効である未利用森林資源の利用を進めるために、石炭火力と混焼した場合の持続性等について実証を行うことを目的とする事業。

※2再生産可能な森林資源である木材を使用することで、自然との調和性を生み出し、地球にやさしい環境づくりをするため、県産材の利用を主な事業目的とする団体。

※3樹木リサイクルに関する技術開発と、同資源の活用推進に関する事業を行い、併せて樹木を通しての循環型社会の構築を、主な事業目的とする特定非営利活動法人(本部:大阪市)。

以上

添付資料

[新小野田発電所における林地残材バイオマス混焼の概要](#)  [PDF:223KB]

新小野田発電所における林地残材バイオマス混焼の概要

これまでの木質バイオマスの受け入れ量（約1万トン／年）に加えて、このたびの実証事業に伴う林地残材バイオマスの受け入れ量（約2.5万トン／年）を増量するため、新たに受入・払出設備を増設しました。

今後、林地残材等バイオマスをトラックで発電所に受け入れ、約2%（石炭に対する重量比）の混合割合で石炭コンベアに供給し、微粉炭機で石炭と共に粉砕しボイラで燃焼させます。

【設備概要図】

